

参考資料 2

科学技術・学術審議会

学術分科会

人文学・社会科学特別委員会

(第 21 回)

令和 6 年 1 月 26 日

人文学・社会科学における「プロジェクト型」・ 「異分野融合型」共同研究の成果の多様性

令和 5 年 1 2 月 2 2 日

文部科学省 研究振興局 振興企画課 学術企画室



文部科学省

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業 プログラム概要（平成25年度～令和2年度採択分）

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業のプログラム

領域開拓プログラム

異なる学問分野の研究者の参画を得て、新たな研究領域への予想外の飛躍をもたらすような課題の追求や方法論の継続的な改良を目指す。

研究テーマ設定型
年間配分額（予定）
10,000 千円/件

研究テーマ公募型
年間配分額（予定）
5,000 千円/件

実社会対応プログラム

社会的貢献に向けた共同研究を推進するため、研究成果と実務を橋渡しできる者（「実務者」）の参画を得て分野間連携による共同研究を実施し、研究推進から成果発信までの研究者と実務者の連携を目指す。

研究テーマ設定型
年間配分額（予定）
10,000 千円/件

研究テーマ公募型
年間配分額（予定）
5,000 千円/件

グローバル展開プログラム

人文学・社会科学の様々な分野を対象とした国際共同研究を推進し、国際的なネットワークの構築による海外の研究者との対話やグローバルな成果発信を目指す。

研究テーマ設定型
年間配分額（予定）
20,000 千円/件

研究テーマ公募型
年間配分額（予定）
10,000 千円/件

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業 研究テーマ数と評価結果（平成25年度～令和2年度採択分）

	領域開拓	実社会対応	グローバル展開
研究テーマ数	35	32	18
S	1	1	0
A	18	18	8
B	15	12	10
C	1	1	0

【参考】評価基準

（総合評点）

評点	評価基準
S	研究目的に照らして、期待以上の成果があった
A	研究目的に照らして、期待どおりの成果があった
B	研究目的に照らして、期待どおりではないが一定の成果があった
C	研究目的に照らして、十分な成果があったとは言い難い

※「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」研究評価要項（平成27年3月26日、改定：令和3年3月17日）より抜粋

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業 各プログラム課題の「研究成果」例

領域開拓

社会心理学・神経科学・内分泌学の連携による文化差の遺伝的基盤の解明
(石井敬子・H26採択)

成果発表状況	件数等
論文(うち国際共著)	63件(27件)
著作物	13件
講演(うち招待)	54件(9件)
主催シンポジウム	4件
その他	—

地域社会の災害レジリエンス強化に向けて—SNSとクラウドGISを用いた共時空間型地域研究
(古澤拓郎・H26採択)

成果発表状況	件数等
論文(うち国際共著)	16件(6件)
著作物	2件
講演(うち招待)	5件(1件)
主催シンポジウム	1件
その他	スマートフォンアプリ開発

実社会対応

親族内承継か第三者によるM&Aか？
(打田委千弘・H30採択)

成果発表状況	件数等
論文	9件
著作物	1件
講演	16件(行政や商工会等との連携)
主催シンポジウム	3件
その他	—

国境観光：
地域を創るボーダースタディーズ
(岩下明裕・H25採択)

成果発表状況	件数等
論文	10件
著作物	8件
講演	12件
その他	現地シンクタンク、観光業界等と連携した観光資源発掘

グローバル展開

政治と外交の対外情報発信に関する国際共同研究：日本と他国の比較、実験と内容分析によるアプローチ
(多湖淳・H25採択)

成果発表状況	件数等
論文(うち国際共著)	8件(1件)
著作物	4件
講演(うち招待)	14件(3件)
主催シンポジウム	5件
その他	データセットの構築・寄託

文化遺産保護の統合的ガバナンス方法論開発のための国際共同研究
(河野俊行・R1採択)

成果発表状況	件数等
論文	2件
著作物	1件
講演	3件
主催シンポジウム等 ※その他含む	8件 (web展覧会の開催等)

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業（H25～R2 採択分） 採択プログラムにおける「研究成果」の方向性（イメージ）

国際的学術成果の創出
国際研究ネットワーク構築

等

新たなテーマ追求
方法論の開発
新たな研究データ構築

等

国際貢献・還元
（国際的課題への知見提供、アプリ
開発、文化的貢献・・・）

社会貢献・還元、産学連携
（社会的課題への知見提供、
地域活性化、アプリ開発・・・）

研究の性格による分類について

(「学術研究の総合的な推進方策について(最終報告)」(平成27年1月27日科学技術・学術審議会学術分科会)より)

研究の性格による分類について



出典：「東日本大震災を踏まえた今後の科学技術・学術政策の在り方について(建議)」(平成25年1月17日科学技術・学術審議会)、「科学技術研究調査報告」(総務省)、「Frascati Manual」(OECD)を踏まえた上で平成27年1月に文部科学省作成

参考

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業 審査基準及び評価基準（平成25年度～令和2年度採択分）

	領域開拓	実社会対応	グローバル展開
審査基準	<p>1) 研究テーマの性格 「研究計画書」及び「研究提案書」の内容がこのプログラムの趣旨及び設定された課題の内容に合致したものであるか。</p> <p>2) 研究内容・方法 ① 研究目的として、異分野間での連携と協働が明示され、その結果、人文学・社会科学研究の新たな展開・発展が期待できるものであるか。 ② 研究方法は研究目的を達成するために適切なものであり、かつ、研究者同士が十分に議論を行い、分野による方法論や価値観の違いが存在することを相互に理解し、補完し合うものであるか。 ③ 研究成果を適切に公開・普及させる計画は具体的か。 ④ 学術的に高い水準が確保されているか。</p> <p>3) 研究実施体制 ① 研究代表者が研究テーマを推進する上で十分な研究能力及び経験を有するとともに、研究実施期間中、継続して研究活動全体に責任を持つことができるか。 ② 研究プロジェクトチームは、研究テーマを総合的かつ効果的に推進できるまとまりのとれた構成となっているか。 ③ 研究プロジェクトチームは、異分野連携を図る分野の研究者で適切に組織されているか。</p> <p>4) その他 ① 研究遂行のための予算規模が適切であるか。 ② 研究費の管理を担う、研究代表者の所属する研究機関の事務局の体制が整っているか。</p>	<p>1) 研究テーマの性格 「研究計画書」及び「研究提案書」の内容がこのプログラムの趣旨及び設定された課題の内容に合致したものであるか。</p> <p>2) 研究内容・方法 ① 研究目的が明確な問題意識に基づく適切なものであるか。 ② 研究方法は実証的・理論的根拠が適切なものであるか。 ③ 政策や社会の要請に応える課題解決のための具体的な提案が期待できるか。 ④ 研究成果が社会にもたらす効果について、具体的かつ現実的な見通しを持っているか。 ⑤ 研究成果を適切に公開・普及させる計画は具体的か。 ⑥ 学術的に高い水準が確保されているか。</p> <p>3) 研究実施体制 ① 研究代表者が研究テーマを推進する上で十分な研究能力及び経験を有するとともに、研究実施期間中、継続して研究活動全体に責任を持つことができるか。 ② 研究プロジェクトチームは、研究テーマを総合的かつ効果的に推進できるまとまりのとれた構成となっているか。 ③ 研究成果と実務を橋渡しできる適切な者が参画しているか。</p> <p>4) その他 ① 研究遂行のための予算規模が適切であるか。 ② 研究費の管理を担う、研究代表者の所属する研究機関の事務局の体制が整っているか。</p>	<p>1) 研究テーマの性格 「研究計画書」及び「研究提案書」の内容がこのプログラムの趣旨及び設定された課題の内容に合致したものであるか。</p> <p>2) 研究内容・方法 ① 研究目的は国際的なネットワークを構築し、諸外国との協働を推進するものであるか。 ② 研究方法は研究目的を達成するために適切なものであるか。 ③ 日本の学術のグローバル化に寄与・貢献することが期待できるか。 ④ 日本の研究者（特に若手研究者等）が海外の研究環境の中で協働する機会が計画されているか。 ⑤ 研究成果を国際的に発信し、普及させる計画は具体的か。 ⑥ 学術的に高い水準が確保されているか。</p> <p>3) 研究実施体制 ① 研究代表者が研究テーマを推進する上で十分な研究能力及び経験を有するとともに、研究実施期間中、継続して研究活動全体に責任を持つことが期待できるか。 ② 研究プロジェクトチームは、研究テーマを国際的かつ効果的に推進できるまとまりのとれた構成となっているか。 ③ 海外の研究者・関係機関等との間で研究実施のための準備状況は整っているか。</p> <p>4) その他 ① 研究遂行のための予算規模が適切であるか。 ② 研究費の管理を担う、研究代表者の所属する研究機関の事務局の体制が整っているか。</p>
	※「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」研究テーマ審査要項（平成25年7月24日、改定：令和3年11月4日）より抜粋		
評価基準	<p>1. 研究成果 (1) 研究の進展状況 ・本事業の趣旨及び当初の研究目的に沿って、着実に研究が進展しているか。 ・学術的に高い水準が確保されているか。 ・採択時に付された意見が適切に反映されているか。 (2) 研究成果及びその発信・普及 ・当初の研究目的に照らして、期待された成果をあげているか。（あげつつあるか。） ・研究内容・研究成果の積極的な公表、普及に努めているか。 ・異分野間での連携と協働が明示され、その結果、人文学・社会科学研究の新たな展開・発展につながっているか。 (3) 研究実施体制 ・研究プロジェクトチームは、研究者相互の有機的連携が保たれ、研究が効率的に進められる体制になっているか。 ・異分野連携を図る分野の研究者の参加により、本事業の趣旨及び研究目的の達成に相応しい組織が構築されているか。 (4) 委託研究費の使用 ・委託研究費は適正かつ効果的に使用されているか。</p>	<p>1. 研究成果 (1) 研究の進展状況 ・本事業の趣旨及び当初の研究目的に沿って、着実に研究が進展しているか。 ・学術的に高い水準が確保されているか。 ・採択時に付された意見が適切に反映されているか。 (2) 研究成果及びその発信・普及 ・当初の研究目的に照らして、期待された成果をあげているか。（あげつつあるか。） ・研究内容・研究成果の積極的な公表、普及に努めているか。 ・政策や社会の要請に応える課題解決のための具体的な提案ができていないか。 (3) 研究実施体制 ・研究プロジェクトチームは、研究者相互の有機的連携が保たれ、研究が効率的に進められる体制になっているか。 ・研究成果と実務を橋渡しできる適切な者の参加により、本事業の趣旨及び研究目的の達成に相応しい組織が構築されているか。 (4) 委託研究費の使用 ・委託研究費は適正かつ効果的に使用されているか。</p>	<p>1. 研究成果 (1) 研究の進展状況 ・本事業の趣旨及び当初の研究目的に沿って、着実に研究が進展しているか。 ・国際的なネットワークを構築し、諸外国との協働は進展しているか。 ・学術的に高い水準が確保されているか。 ・採択時に付された意見が適切に反映されているか。 (2) 研究成果及びその発信・普及 ・当初の研究目的に照らして、期待された成果をあげているか。（あげつつあるか。） ・研究内容・研究成果の積極的な公表、普及に努めているか。また国際的に発信しているか。 ・日本の学術のグローバル化に寄与・貢献しているか。（しつつあるか。） (3) 研究実施体制 ・研究プロジェクトチームは、研究者相互の有機的連携が保たれ、研究が効率的に進められる体制になっているか。 ・海外の研究者の参加により、本事業の趣旨及び研究目的の達成に相応しい組織が構築されているか。 (4) 委託研究費の使用 ・委託研究費は適正かつ効果的に使用されているか。</p>
	※「課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業」研究評価要項（平成27年3月26日、改定：令和3年3月17日）より抜粋		

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業 研究テーマ一覧①

I 領域開拓プログラム

(第1期 H26～29) 12件

課題設定型研究テーマ (2件)

課題	研究テーマ名	研究者氏名	分野	所属機関・所属部局・職名 ※採択時の情報	研究期間
行動・認知・神経科学の方法を用いた、人文学・社会科学の新たな展開	「社会価値」に関する規範的・倫理的判断のメカニズムとその認知・神経科学的基盤の解明	亀田 達也 他7名	法哲学、心理学、脳科学	北海道大学・大学院文学研究科・教授	平成26～29年度
メディアの発達によるソーシャル・キャピタルの変質	リスク社会におけるメディアの発達と公共性の構造転換～ネットワーク・モデルの比較行動学に基づく理論・実証・シミュレーション分析	遠藤 薫 他8名	社会学、経済学、情報学	学習院大学・法学部・教授	平成26～29年度

公募型研究テーマ (10件)

課題	研究テーマ名	研究者氏名	分野	所属機関・所属部局・職名 ※採択時の情報	研究期間
規範理論と経験分析の対話	規範理論としての法語用論の開拓—ヘイト・スピーチの無効化をめぐる—	尾崎 一郎 他3名	法学、言語学、心理学	北海道大学・大学院法学研究科・教授	平成26～29年度
	地域に資する再生可能エネルギー事業開発をめぐる持続性学の構築	西城戸 誠 他8名	社会学、林学	法政大学・人間環境学部・教授	平成26～29年度
情報メディア発展のもとでの新しい地域研究	新たな華語情報環境のもとでの中国研究が示唆する次世代型地域研究	鈴木 賢 他6名	法学、社会学	北海道大学・大学院法学研究科・教授	平成26～29年度
	エネルギー政策・言説の日独地域比較	タツ川崎 レスリー 他12名	政治学、社会工学	筑波大学・人文社会系・准教授	平成26～29年度
	地域社会の災害レジリエンス強化に向けて—SNSとクラウドGISを用いた共時空間型地域研究	古澤 拓郎 他4名	地域研究、防災工学	京都大学・大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・准教授	平成26～29年度
学術研究の変容とミスマッチについての人文学・社会科学研究	責任ある研究・イノベーションのための組織と社会	吉澤 剛 他7名	知識政策、科学技術社会論	大阪大学・大学院医学系研究科・准教授	平成26～29年度
行動・認知・神経科学の方法を用いた、人文学・社会科学の新たな展開	生きる力の認知神経科学的分析とその教育応用研究の創成	杉浦 元亮 他12名	脳機能イメージング、心理学	東北大学・加齢医学研究所・准教授	平成26～29年度
	高齢者の生活行動データベースの構築および可視化による振り返り学習の実践	溝上 智恵子 他6名	教育学、情報学、認知科学	筑波大学・図書館情報メディア系・教授	平成26～29年度
	歴史科学諸分野の連携・総合による文化進化学の構築	井原 泰雄 他6名	進化人類学、考古学、科学哲学	東京大学・大学院理学系研究科・講師	平成26～29年度
	社会心理学・神経科学・内分泌学の連携による文化差の遺伝的基盤の解明	石井 敬子 他5名	社会心理学、神経科学、内分泌学	神戸大学・大学院人文学研究科・准教授	平成26～令和2年度※

(※) 平成29年度に研究期間の延長を申請し、領域開拓部会の評価の結果、令和2年度まで延長が認められた。

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業 研究テーマ一覧②

I 領域開拓プログラム (第2期 H29～R2) 12件

研究テーマ設定型 (0件)

研究テーマ公募型 (12件)

課題	研究テーマ名	研究者氏名	分野	所属機関・所属部局・職名 ※採択時の情報	研究期間
「認知科学的転回」とアイデンティティの変容	アイデンティティの内的多元性：哲学と経験科学の協同による実証研究の展開	竹澤 正哲 他5名	社会心理学、哲学	北海道大学・文学研究科・准教授	平成29～令和2年度
	脳機能亢進の神経心理学によって推進する「共生」人文社会科学の開拓	小山 慎一 他5名	神経心理学、デザイン学	筑波大学・芸術系・教授	平成29～令和2年度
	個々人の心的アイデンティティの多元的認知行動解析による理解	一川 誠 他17名	認知科学、情報科学、計測工学	千葉大学・大学院人文科学研究科・教授	平成29～令和2年度
	予測的符号化の原理による心性の創発と共有-認知科学・人文学・情報学の統合的研究-	大平 英樹 他8名	認知科学、情報学	名古屋大学・情報学研究所・教授	平成29～令和4年度※
	創発的知性としての「群衆の智慧」：集団意思決定による社会と個人の変容	齋木 潤 他5名	認知科学、社会心理学、数値生態学	京都大学・人間・環境学研究所・教授	平成29～令和2年度
「責任ある研究とイノベーション」の概念と「社会にとつての科学」の理論的実践的深化	生命・環境技術の社会実装に関する先端融合研究—21世紀型参加のビジョンと試行—	松田 毅 他18名	哲学、生命科学、環境科学	神戸大学・人文学研究科・教授	平成29～令和2年度
	RRIの新展開のための理論的・実践的研究—教育・評価・政治性に注目して	標葉 隆馬 他8名	科学社会学、生物学	成城大学・文芸学部・専任講師	平成29～令和2年度
テクノロジーの革新と日本の美学および感性	観客とともに共創する芸術—光・音・身体の共振の社会的・芸術学的・工学的研究	山崎 敬一 他13名	社会学、芸術学、情報工学	埼玉大学・人文社会科学研究所・教授	平成29～令和2年度
	響き合う空間、励起される美意識	古川 聖 他2名	実験音楽、建築学	東京藝術大学・美術学部・教授	平成29～令和2年度
	日本の伝統芸能における技法やコンテンツを先端ロボット産業に活かすUXデザイン研究	中川 志信 他7名	芸術学、理工学、デザイン学	大阪芸術大学・芸術学部・教授	平成29～令和2年度
嗜好品の文化的・社会的意味	失われた飲食文化の復活と現代に問いかけるその意義	伊藤 信博 他15名	文学、農学	名古屋大学・人文学研究科・助教	平成29～令和2年度
	「嗜好品」とは何か？—嗜好品に関する学際的研究と文献データベース構築を通して	松原 豊彦 他18名	農業経済学、民俗学、心理学	立命館大学・経済学部・教授	平成29～令和2年度

(※) 令和2年度に研究期間の延長を申請し、領域開拓部会の評価の結果、令和4年度まで延長が認められた。

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業 研究テーマ一覧③

I 領域開拓プログラム

(第3期 R2～R4) 11件

研究テーマ設定型 (0件)

研究テーマ公募型 (11件)

課題	研究テーマ名	研究者氏名	分野	所属機関・所属部局・職名 ※採択時の情報	研究期間
人文学・社会科学における方法論の検討 および新たな創出の試み	分野間比較を通じた質的研究アプローチの再検討	井頭 昌彦 他10名	歴史学、社会学、文化人類学、心理学、政策科学	一橋大学・大学院社会学研究科・教授	令和2～4年度
	対話型アーカイブズによる新たな「島嶼の知」の創出に基づく島嶼地域科学の体系化	波多野 想 他6名	文化遺産学、環境経済学	琉球大学・島嶼地域科学研究所・教授	令和2～4年度
人工知能など高度化する情報技術社会におけるルールと公共性の問題	AIが介護保険行政を代行する際のルールに関する研究－地域経営とSCの視座から－	川島 典子 他6名	社会福祉学、人工知能、医療情報学	福知山公立大学・地域経営学部・教授	令和2～4年度
グローバル化社会における格差と機会の平等についての領域横断的研究	リテラシー格差の発生要因とその意思決定への影響、格差縮小方策に関する実証研究	小川 一仁 他14名	行動経済学、社会心理学、社会情報学、公衆衛生学	関西大学・社会学部・教授	令和2～4年度
科学技術と「人間」との関係性に関する研究	創造する天然知能としての「わたし」の理論と実践	郡司 幸夫 他8名	哲学、文化人類学	早稲田大学・基幹理工学部・教授	令和2～4年度
パンデミックなど世界規模の災禍への人間社会の対応と課題	新型コロナウイルス 問題対応の法制度論的（法政策論的）考察	吉田 邦彦 他5名	法学、疫学、感染症学、統計分析学	北海道大学・大学院法学研究科・教授	令和2～4年度
	新型コロナウイルスに関する主観的報告コーパスの自然言語処理による現象学的分析	トム・フロース 他8名	認知科学、哲学	沖縄科学技術大学院大学・身体性認知科学ユニット・准教授	令和2～4年度
	パンデミックの歴史研究に基づいたポストパンデミックの社会・環境理論の構築	藤原 辰史 他10名	歴史学、医療社会学、経済学	京都大学・人文科学研究所・准教授	令和2～4年度
	災害対策検討に資する網羅的企業取引ネットワークにおける大規模シミュレーション	井上 寛康 他4名	ネットワーク科学、経済学、情報学	兵庫県立大学・大学院シミュレーション学研究科・准教授	令和2～4年度
	グローバルな視座から見た原子力災害後のコミュニケーションに関する総合的研究	関谷 直也 他6名	心理学、社会学	東京大学・大学院情報学環総合防災情報研究センター・准教授	令和2～4年度
エビデンスに基づく感染症拡大の経済学・疫学連携研究と政策分析	西山 慶彦 他10名	経済学、疫学、情報学	京都大学・経済研究所・教授	令和2～4年度	

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業 研究テーマ一覧④

II 実社会対応プログラム (第1期 H25～27) 13件

課題設定型研究テーマ (2件)				
課題	研究テーマ名	研究者氏名	所属機関・所属部局・職名 ※採択時の情報	研究期間
人口動態を踏まえた日本の国と社会のかたち	少子化対策に関わる政策の検証と実践的課題の提言	阿部 正浩 他17名	中央大学・経済学部・教授	平成25～27年度
非常時における適切な対応を可能とする社会システムの在り方	非常時における適切な対応を可能とする社会システムの在り方に関する社会科学研究	齊藤 誠 他11名	一橋大学・大学院経済学研究科・教授	平成25～27年度
公募型研究テーマ (11件)				
課題	研究テーマ名	研究者氏名	所属機関・所属部局・職名 ※採択時の情報	研究期間
観光の人文学・社会科学的深化による地域力の創出	国境観光：地域を創るボーダースタディーズ	岩下 明裕 他16名	北海道大学・スラブ・ユーラシア研究センター・教授	平成25～27年度
	民間所蔵文化財の資源化・流通による学術観光創成の実証的研究	安藤 美奈 他8名	東京藝術大学・美術学部・講師	平成25～27年度
	地域に現存する学術資料を活用した地域学術観光創出に関する研究	堀井 洋 他10名	合同会社 A M A N E ・調査研究ユニット・代表社員	平成25～27年度
規制改革の評価分析	雇用確保に向けられた労働法及び倒産法における規制改革の現状と課題	池田 悠 他4名	北海道大学・大学院法学研究科・准教授	平成25～27年度
	規制改革圧力下における混合診療拡大の方向性	加藤 智章 他4名	北海道大学・大学院法学研究科・教授	平成25～27年度
	短期貸借保護制度撤廃による不動産競売市場・規制改革の効果分析	福井 秀夫 他8名	政策研究大学院大学・政策研究科・教授	平成25～30年度
教育政策の社会的・経済的効果に関する評価	初等中等教育での教育投資や学力が若年期の学習意欲・就業・所得に与える影響の実証研究	赤林 英夫 他8名	慶應義塾大学・経済学部・教授	平成25～27年度
共生社会実現をめざす地域社会及び専門家の内発的活動を強化するための学術的実践	認知行動療法のICT化とサポートネットワーク構築によるバリアフリーなメンタルケア	下山 晴彦 他13名	東京大学・大学院教育学研究科・教授	平成25～27年度
	病院を中心とする街づくり まちなか集積医療の提言	伊藤 由希子 他4名	東京学芸大学・教育学部・准教授	平成25～27年度
	ケアと支え合いの文化を地域コミュニティの内部から育てる臨床哲学の試み	浜渦 辰二 他18名	大阪大学・大学院文学研究科・教授	平成25～27年度
	高齢者施設等の地域への社会的・福祉的防災復興資源としての役割に関する研究	大塚 毅彦 他5名	明石工業高等専門学校・建築学科・教授	平成25～27年度

(※) 平成27年度に研究期間の延長を申請し、実社会対応部会の評価の結果、平成30年度まで延長が認められた。

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業 研究テーマ一覧⑤

II 実社会対応プログラム (第2期 H27～30) 11件

課題設定型研究テーマ (2件)

課題	研究テーマ名	研究者氏名	所属機関・所属部局・職名 ※採択時の情報	研究期間
制度、文化、公共心と経済社会の相互連関	制度が文化を通じて人々の社会規範や公共心に与える影響：実験室実験とフィールド実験	佐々木 勝 他9名	大阪大学・大学院経済学研究科・教授	平成27～30年度
疫病の文化形態とその現代的意義の分析 — 社会システム構築の歴史的考察を踏まえて—	医学史の現代的意義—感染症対策の歴史化と医学史研究の社会との対話の構築	鈴木 晃仁 他25名	慶應義塾大学・経済学部・教授	平成27～30年度

公募型研究テーマ (9件)

課題	研究テーマ名	研究者氏名	所属機関・所属部局・職名 ※採択時の情報	研究期間
制度、文化、公共心と経済社会の相互連関	私益と公益が錯綜する公共的意思決定のプロセスデザインに関する研究	大沼 進 他5名	北海道大学・大学院文学研究科・准教授	平成27～30年度
	効果的・持続的な災害伝承を目的にした拠点構築手法のモデル化と実践的研究	佐藤 翔輔 他13名	東北大学・災害科学国際研究所・助教	平成27～30年度
	子ども・若者の貧困対策諸施策の効果と社会的影響に関する評価研究	阿部 彩 他10名	首都大学東京・大学院人文科学研究科・教授	平成27～30年度
	日本の昆布文化と道内生産地の経済社会の相互連関に関する研究	齋藤 貴之 他7名	星城大学・リハビリテーション学部・講師	平成27～30年度
	共感形成の社会基盤とソーシャル・ビジネスを活用した新産業創造の研究	八木 匡 他10名	同志社大学・経済学部・教授	平成27～30年度
人口減少地域社会における安心しうるケア・システムの構築と生活基盤の整備	地域特性が生きる医療介護総合計画の評価基準の確立—小児在宅医療を起点にして	加藤 智章 他4名	北海道大学・大学院法学研究科・教授	平成27～30年度
	地域社会における生活基盤の持続可能性指標の開発	大西 立顕 他2名	東京大学・大学院情報理工学系研究科・准教授	平成27～30年度
	データベース解析に基づくケア・システムの地域特性の把握と福祉まちづくりデザイン	佐無田 光 他12名	金沢大学・経済学経営学系・教授	平成27～30年度
	多世代協働による生活支援モデルの開発と社会実装に向けた研究	藤原 佳典 他10名	地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター・東京都健康長寿医療センター研究所研究部長	平成27～30年度

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業 研究テーマ一覧⑥

II 実社会対応プログラム (第3期 H30～R3) 8件

研究テーマ設定型 (0件)

研究テーマ公募型 (8件)

課題	研究テーマ名	研究者氏名	所属機関・所属部局・職名 ※採択時の情報	研究期間
世代間衡平性・持続可能性・社会安全性等の倫理的観点を考慮した政策設計のための実践的研究	親族内承継か第三者によるM&Aか? : 沖縄におけるファミリー企業の実地調査	打田 委千弘 他7名	愛知大学・経済学部・教授	平成30～令和3年度
	工学・脳科学をエビデンスとした社会的基盤概念と価値の創生	松浦 和也 他16名	東洋大学・文学部・准教授	平成30～令和3年度
LGBTおよび性的少数者をめぐる社会的ダイバーシティの実現に関する研究	生殖補助医療・社会的養護によるLGBTの家族形成支援システムの構築	二宮 周平 他12名	立命館大学・法学部・教授	平成30～令和3年度
人口減少社会における多様な文化の共生をめざすコミュニティの再構築	尊厳ある縮退によるコミュニティの再生と創生	渥美 公秀 他12名	大阪大学・人間科学研究科・教授	平成30～令和3年度
	移住者を惹きつける中山間地域の地域資本を解き明かす : 山梨県での学際的地域協働研究	高橋 康夫 他7名	公益財団法人地球環境戦略研究機関・自然資源・生態系サービス領域・研究員	平成30～令和3年度
	実践と政策のダイナミクスによる多文化共生 : 大阪型在日外国人参加モデルと政策提言	高谷 幸 他13名	大阪大学・人間科学研究科・准教授	平成30～令和3年度
	人口減少社会における包摂と継承—「最先端」秋田からの提言	熊谷 嘉隆 他12名	国際教養大学・国際教養学部・教授	平成30～令和3年度
忘却に関する学際的研究と社会対応基盤の構築	忘却するWeb情報提示機構の実装と認知的・経済的価値の評価	森田 純哉 他3名	静岡大学・情報学部・准教授	平成30～令和3年度

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業 研究テーマ一覧⑦

Ⅲ グローバル展開プログラム (第1期 H25～28) 5件

課題設定型研究テーマ (2件)

課題	研究テーマ名	研究者氏名	所属機関・所属部局・職名 ※採択時の情報	研究期間
グローバル人文学	アジア歴史空間情報システムによるグローバル・ヒストリーの新研究	水島 司 他10名	東京大学・大学院人文社会系研究科・教授	平成25～28年度
日本の国際広報と国際発信に関する実証研究	政治と外交の対外情報発信に関する国際共同研究：日本と他国の比較、実験と内容分析によるアプローチ	多湖 淳 他7名	神戸大学・大学院法学研究科・准教授	平成25～28年度

公募型研究テーマ (3件)

課題	研究テーマ名	研究者氏名	所属機関・所属部局・職名 ※採択時の情報	研究期間
科学についてのコミュニケーション及び意思決定の国際的な整合的発展	エネルギー、化学物質、水管理政策における市民参加型の意思決定手法に関する国際比較	大久保 規子 他9名	大阪大学・大学院法学研究科・教授	平成25～28年度
家族制度と男女共同参画に関する国際比較	国際比較可能データによる男女共同参画と家族の役割変化の多元的動学分析	樋口 美雄 他13名	慶應義塾大学・商学部・教授	平成25～28年度
日本企業のコーポレート・ガバナンスに関するグローバルな発信	日本の企業統治の比較実証分析：所有構造・戦略選択・パフォーマンス	宮島 英昭 他8名	早稲田大学・商学大学院・教授 早稲田大学・高等研究所・所長	平成25～28年度

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業 研究テーマ一覧⑧

Ⅲ グローバル展開プログラム (第2期 H28～R1) 7件

研究テーマ設定型 (1件)

課題	研究テーマ名	研究者氏名	所属機関・所属部局・職名 ※採択時の情報	研究期間
グローバル社会における排他主義と民主シーに関する総合的研究	グローバル社会における民主シーと国民史・集合的記憶の機能に関する学際的研究	橋本 伸也 他20名	関西学院大学・文学部・教授	平成28～令和元年度

研究テーマ公募型 (6件)

課題	研究テーマ名	研究者氏名	所属機関・所属部局・職名 ※採択時の情報	研究期間
グローバル社会における排他主義と民主シーに関する総合的研究	多文化共生民主シーの社会的基盤設計－制度・構造・規範の国際比較共同研究	大賀 哲 他17名	九州大学・法学研究院・准教授	平成28～令和元年度
	「難民危機」の時代におけるレイシズムの変容とその克服策に関する国際比較研究	飯田 文雄 他9名	神戸大学・法学研究科・教授	平成28～令和元年度
グローバル化に対応した人文学・社会科学教育の国際比較	人文・社会科学教育の内容と方法のイノベーションに関する国際比較研究	佐藤 学 他24名	学習院大学・文学部・教授	平成28～令和元年度
	国民国家型の大型歴史教育をグローバル化時代に適応させる方法に関する国際比較	堤 一昭 他12名	大阪大学・文学研究科・教授	平成28～令和元年度
グローバル人文学：日本文学・芸術・思想の普遍性の探求	絵ものがたりメディア文化遺産の普遍的価値の国際共同研究による探求と発信	阿部 泰郎 他23名	名古屋大学・文学研究科・教授	平成28～令和元年度
	道元の世界観：分析アジア哲学的アプローチ	出口 康夫 他10名	京都大学・文学研究科・教授	平成28～令和元年度

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業 研究テーマ一覧⑨

Ⅲ グローバル展開プログラム

(第3期 R1～R3) 6件

研究テーマ設定型 (0件)

研究テーマ公募型 (6件)

課題	研究テーマ名	研究者氏名	所属機関・所属部局・職名 ※採択時の情報	研究期間
グローバル化する世界における社会的分断の研究	グローバル化のなかの都市分断と社会的紐帯に関する近隣効果の国際比較研究	川野 英二 他10名	大阪市立大学・大学院文学研究科・教授	令和元年～3年度
情報化やAIなどの技術革新および環境問題などに直面する新たな人文学・社会科学の展開	AI時代の国際私法	佐藤 健 他2名	国立情報学研究所・情報学プリンシプル研究系・教授	令和元年～3年度
	技術革新および環境化学物質は不妊を増加させたか	小西 祥子 他7名	東京大学・大学院医学系研究科・准教授	令和元年～3年度
人類の文化遺産継承のための国際共同研究	逸失の危機にある文化遺産情報の保全・復元・活用に関する日・欧・アジア国際共同事業	稲葉 穰 他7名	京都大学・人文科学研究所・教授	令和元年～3年度
	新たな価値を創造する文化遺産活用の国際共同研究 ユーザー関与度深化、地域作りの視点	河島 伸子 他5名	同志社大学・経済学部・教授	令和元年～3年度
	文化遺産保護の統合的ガバナンス方法論開発のための国際共同研究	河野 俊行 他9名	九州大学・大学院法学研究院・教授	令和元年～3年度

課題設定による先導的人文学・社会科学研究推進事業 研究成果の詳細について

各プログラムの研究成果の詳細につきましては、以下のサイトをご参照ください。

領域開拓プログラム



実社会対応プログラム



グローバル展開プログラム

